

第9回まちづくり委員会次第

日 時 3月14日(木) 午後7時00分～
会 場 消防庁舎3階 小会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 協議事項

(1) 第五次総合計画前期基本計画「協働のまちづくり意見交換会」のまとめ

4. その他

5. 閉 会

第五次総合計画前期基本計画「協働のまちづくり意見交換会」のまとめ

第9日委員会(3月14日)

集約項目	内 容
住民＋行政	「協働」を言葉として理解しても内容の理解が不十分
	協働のあり方が理解しづらい
	協働はなぜ必要か？
	行政と町民との情報のキャッチボールが必要
	本来当たり前のことをあえて「協働」ということでわかりづらくしている
	ここで改めて町民と協働の再認識を
	お互いに”あて職” = 学ぶこと多いディスカッションであった
	協働を意識した意見が出せなかった
	職員の意識と町民との思いに隔たりがあり
5次総	参画や理解しやすいテーマとしにくいテーマがある
	テーマが幅広いため、的が絞りづらく浅くなってしまう。
	町民を巻き込む「協働のテーマ」をもっと絞り込む必要があると思う。
	身近なテーマに絞り込み具体化させる
	定年を迎えた方に自主的テーマを与えてはどうか
	協働をテーマに一般人の参加できることを考えたらどうか
	協働項目・テーマの絞込みを
	協働しやすい重点テーマに絞る
行政側	行政ができないことを自分たちで行う＝何かをしたいと思う人は多い → 投げかけや、つなげるところがあれば = 協働コーディネーター (例) 子育てマスター = コーディネーター
	目標が数値化されていないので進捗もアナログになってしまう
	協働のコーディネーターを設ける = プラットホーム
	協働を他の課や町民に投げかけたか
	協働の進捗管理ができていなかった
	協働が理解されている職員ともう一步の職員がいそう
	役場のセクションの課題を幅広く投げかけたか
	他の部門が評価する仕組みを作ることが必要
	委員会での意見が行政の全ての部署に伝わる仕組みを
	行政から協働を仕掛けた例を聞けなかった
	協働の組織付け = (例) 民間の活用
	介護予防教室のマンネリ化
	役場の他の部署の評価 = リーダー不足(協働の中で)
	どこにどんな(やりたいという気持ち、特技?) 人がいるかしらないと = 人材バンク
	協働コーディネーターの育成を
	民間を検討

集約項目	内 容
	<p>日常業務そのものは協働ではない</p> <p>ソーラーの補助多く</p> <p>カワニナ飼育オーナーを募り関心を高める</p> <p>「町民の声」の箱にはどれくらいの声がとどけられているのか？</p> <p>町として町民にやってもらいたいことを区長会へ下ろしたらどうか</p> <p>「協働のまちづくり」の更なる説明を</p> <p>自治会単位で出前講座を</p> <p>区と行政とのパイプを太く。町として町民にやってもらいたい要望事項を区長を通して各区へおろしたらどうか</p> <p>役場、社会福祉協議会、ボランティアセンターとの連携を</p> <p>協働のPRを</p>
住民側	<p>協働のことを考える余裕がない</p> <p>身近にできる簡単なことがわかればよいが・・・</p> <p>町民が協働に無関心、協働意識出せない。</p> <p>子どもの遊びに関われば</p> <p>生き物ネットワークの取組み評価</p> <p>アレチウリ = 地域組織となったか？</p> <p>町が財政難になっていたことに比べ「協働」が下火になっている</p> <p>「自治会」は行政側か？住民側か？協働の主体としての位置づけは？</p> <p>協働に対して自分たちが理解していない</p> <p>行政に対してもっと協働の提言を</p> <p>協働のモデルケース</p> <p>中心人物欲しい</p>